

# 石川佳純

## 選手インタビュー

2008年1月15日から20日までの6日間、東京体育館で開催された全日本卓球選手権大会。この大会でジュニア2連覇、女子ダブルスベスト8、シングルスベスト4と、パワー全開でプレーし続け、会場を大いに沸かせてくれた石川佳純選手が、大会終了直後にニッタクニュースのインタビューに応えてくれた。今大会の試合と成績を振り返りながら、今年の春には中学生から高校生になる石川選手の新たな目標に近づいていきたいと思う。



プロフィール  
石川佳純 (ミキハウスJSC)  
平成18、19年度  
全日本選手権大会  
女子ジュニア優勝  
平成18、19年度  
全日本選手権単3位



### 全日本選手権を振り返って

—まずは、全日本選手権、お疲れさまでした。今回の全日本はハードなスケジュールだったと思いますが、試合前のジュニア、女子ダブルス、シングルス、それぞれの石川選手の目標はどんな感じだったんですか？

石川「ジュニアと女子ダブルスの目標は優勝で、シングルスはできれば決勝に出たかったです」

—全日本が終了した現時点で振り返ってみると、全体として自己採点は何点くらいになりますか？

石川「60から70点くらいですかね」

—満点に足りていない部分はどこになりますか？

石川「全体的に、いい調子でプレーできなかった、イメーシ通りにプレーできなかった。悔しいというか残念でした。ただ、調子がよくなくてもジュニアで挽回して優勝できたのが、あきらめずにできたんで、それが前より成長できたところかな。コートにも言われたし、前よりも我慢できたことはよかったです。やっぱり思っています」

—今、話が出たジュニアの試合ですが、準決勝も決勝も相手にリードされて、追い詰められてしまいましたよね？

石川「ジュニアはどうしても連覇したかったので、2-0で準決勝も決勝もリードされたんですけど、なんとか勝りたいし、負けられないという気持ちで、1本ずつ取りました。リードされている時は、そこであせつてむちゃくちゃに打っちゃうとまた流れが悪くなるので、なるべく落ち着いてやるように心がけました」

—特に、藤井優子選手との決勝は、どんな感じだったんですか？

石川「試合前はいつもと同じ感じで何もなかったですけど、試合が始まって、藤井さんが今までと違うサーブをやってきて、最初うまくレシーブできなかったですね。でも、3セット目からはだいぶ慣れてきて、自分から作戦を変えることができたのがよかったです」

—ジュニアの2連覇を決めた時の気持ちは？

石川「ホッとしたという感じですよ！ジュニアだけ点数にしてみると、90点、うーん、100点ですね」

### 女子ダブルス&シングルス

—次に女子ダブルスの感想をお願いします。

石川「ダブルスは、せっかく平野さんと組んでもらったのに、負けちゃったのは悔しかったです」

—前日に1日8試合を戦った疲れが、この日のダブルスに影響が出てきたとか、そういうのはありましたか？

石川「いや、疲れとかはなかったんですけど、相手もうまく返せなかったですね」

—ところで、石川選手と平野早矢香選手との相性はどのですかね？

石川「普段からいつも一緒になので、お姉さんみたいな感じで接してくれるんで、相性はいいと思います。強いけど、ぜんぜんそんな感じじゃないし、緊張しても「大丈夫！大丈夫！」って言うてくれますし、いつも面白いです(笑)」

—平野選手とのダブルスの経験がもっと増えていったら、もっといい結果が出るかも

しませんね？

石川「はい！もっと練習していけばいい結果も出るかなと思っています」

—最後に、去年と同じ成績だったシングルスはどうでしたか？

石川「去年のベスト4は勢いだけというか、自分で何をやっているかわからないというか、打ったらなんでも入るっていういい感じでできて、強い相手にも勝てたと思うんです。けど、今年は、表彰台に上がりたいという気持ちでやった試合だったから、とにかく勝ちたいという気持ちが強かったですね。去年は準決勝まで行ったので、やっぱり決勝まで行きたかったな...」

—今振り返ってみて、準決勝の試合はどんな感じでしたか？ 準決勝の相手は、去年の準々決勝では石川選手がチャレンジャーとして戦ったように見えたんですが、今年も向こうがチャレンジャーみたいな感じだったように見えたんですか？

石川「去年は実力的にも成績的にも差があったので、





石川「はい、たぶんサーブのコースとかもバック前を狙われたりしてたんで…」

—2—2の5セット目、9オールになった時が、この試合の勝負の分かれ目だったと思ってるのですが、いかがですか。

石川「あの時は自分がレシーブだったんで、あまり自信がなかったんですが、確かにそこできっかり一本取りたかったです。あれで流れが変わっちゃったんで、悔しかったですね」

### 高校生としての新たな目標

—今年の4月からは高校生になります、中学生から高校生になるのは、どんな気持ちになりますか？

石川「高校生になって環境が変わるわけではなく、学年が変わるだけって感じなので、あまり実感はないですね」

—何か高校生になってやってみたいことはありますか？  
石川「うーん、ないですね。卓球をやりたいです(笑)」

—そうすると、高校生としての石川選手の目標は、何になりますか？

石川「そうですね、インターハイで、団体とシングルスとダブルスで優勝して、3冠を取れるようにしたいです。できたら高一で取りたいですね」

—その目標のために、石川選手としてはこれからどんなことをしていきたいと思っ  
ていますか？

石川「技術もあげたいし、パワーもつけたい、レシーブとかサーブとかももっと回転を強くしていきたいんで、よく寝て、よく食べて、よくトレーニングするのを実行していきたいです。去年の秋のヨーロッパで、向こうの選手とやった時に、パワーがすごいし、日本の選手と戦い方がぜんぜん違うんで、いろいろ勉強になったし、もうちょっと自分もパワーをつけたいといけないなと思えました。走ったりとかもして、あと身長が伸びたらいいかなと思ってます」

—それでは、ニッタクニユー

スを読んでる、石川選手を応援してくれている人にメッセージをお願いします。

石川「これからもっと世界で活躍できる選手になりたいので、もっともっと練習をして強くなりたいです。これからもがんばりますので応援よろしくお願いします。みなさん、ニッタクニユースを読んで下さいね」



全日本卓球選手権大会の後に行われた、日本の卓球の上位選手が一同に会するトップ12ではベスト4、2月に中国で開催される卓球世界

選手権団体戦のメンバーにも選ばれたことで、石川選手は日本の女子卓球陣の次世代の柱としての実力と経験を積み重ねつつある。そして、高校生としてインターハイでの3冠という新たな目標、さらに石川選手がその先に見据えるのは、2009年の横浜での世界選手権、2012年のロンドン五輪で、日本代表としてプレーするという小さい時からの夢！中学生から高校生、日本から世界へと活躍の場を広げていく石川選手の一挙手一投足に、これからも注目していきたい。

